

「ぜいはあ、」

作・演出 長野 恵美

登場人物

津島 洋美(37)……嶋木 美羽 独身OL。生きる為にイキる。ただのアヒルの子……？

金田 亜耶(25)……榊原 茜 不思議ちゃん。洋美の姪の親友(多分)。溺れるの大好き！

金田 柳子(54)……かくた なみ 超絶ミニマリスト。亜耶の母。シンプルイズベスト！

相川 佳子(42)……花美 えりい 略奪愛からの未亡人。洋美の姉。人生が昼ドラ♪

相川 美鈴(25)……渡邊 杏奈 天使な子。佳子の娘。亜耶の親友。幸せいっぱいいっぱい

上原 野乃花(32)……長野 恵美 ちよつど良い女。洋美の職場の後輩。計算とか得意です。

天島 庵(33)……坪和 あさ美 不動産会社の人。完全なる部外者その1。愛と欲望の果て。

チヨコ太郎(?)……内田 啓太 地縛霊。完全なる部外者その2。忘却、結婚、以上……！

※2019年9月の物語です。

この物語はフィクションです。

0

高級そりなマンションの一室。

舞台下手後方には2人掛け用のソファ、舞台中央には大きな丸テーブルに椅子が2脚。舞台上手後方にはテレビが。他にも、本棚やルームランプ等が設置されている。舞台中央後方には、高そりな絵画も飾られている。

開場中。チヨコ太郎(正確にはまだ内田啓太さん)が、一人で場内整理をしている。

チヨコ いらつしやいませー。会場内、とても狭くなっております。気を付けてお入りくださーい。あ、僕、内田啓太です。役者です。あ、いらつしやいませー。受付でもらったドリンク、あると思うんですけど、これは、いつ飲んでいただいても構いません。ただし、外から持ち込んだドリンクや食べ物、ダメです。ここではダメ。メッーあ、お手洗いは客席後方に凄いのが、おタバコは所定の喫煙所をお願いしまーす。上演時間85分を予定しておりますので、今のうちに諸々お済ませくださーい

等々、良い感じに場内整理をしながら、観劇に関する諸注意も。
花道付近にお客様がお座りになられたら、

チヨコ あ、花道チェック入りまーす！

と宣言し、花道を奇妙な動きをしながら往復する。

チヨコ はい。僕が通れるのでOKです。ご協力ありがとうございます。はい。花道という言葉でピンと来た人もいると思うんですけど、ここ(花道を指し示す)この道、上演中使います。役者、通ります。まあ、僕さえ通れば他のキャストさん全員通れるんで、だから僕、ここに居るんですけど。役者なのに。客演なのに。ねー。全く、理不尽な話ですよー

照明、少しの間、赤く点滅する。

チヨコ あ、これ、劇団Theater Eastの長野さんが怒っているという合図です。今回はその、劇団Theater East+主宰の長野恵美さんが音響と照明もやってるんですけどね？今回、あまりにも役者としての出番が少ないからあ、やっぱり、私ももっと目立ちたいんで、えへへ。私、怒ったら、照明とか音響で感情を表現しますね。えへへとか言いやがりまして「私が脚本を書いて演出してるんです。だから、私は神様です！えへへ」って、いや、なんか良く分からないんですけど、まあ役者としては「あ、はい。分かりました」しか言えないじゃないですか？

等々、アドリブでトークを繰り広げたり、真面目に場内整理したり、照明が変わったり、花道チェックをしたり、好きな歌を歌ったりして過ごすチヨコ太郎。

チヨコ でもね、僕思うんですけど、人間も、似たようなものだなーって。はい。誰かしらに、それぞれのニーズに合わせた役割を与えられて、それに沿って、なんとなく生きているんだな僕達はーって。だって、自分の名前ですら自分でつけたものじゃないんですよ？凄くない？これ、凄くないか？僕が役者やるぞーって決めたのも、僕としては自分の意思で決めたーって思ってますけどもしかしたら小さ

い頃に見たドラマ俳優に憧れてーとかかもしれないじゃないですか？つまりその場合、僕が今、役者をやっているのは、その俳優のせい？おかげ？自分の意思じゃない？こつやつて今僕が日本語を流暢に喋っているのも周りから教えられたからだし、あ、もうすぐ開演時間だなーって思えるのも、決められた時間を守らなければならぬという概念が僕の中に存在しているからであって

やがて、開演合図の曲が流れる。

チヨコ お、この曲が流れたという事は、そろそろ開演です！開演ですよみなさん！
本当にお待たせしましたー……あ、携帯スマホは電源を切るか、ブーツ！て、なんか、あの、ブーツ！て、なんか震える奴すら出ない設定にしていただいて

喪服姿の佳子と美鈴、チヨコ太郎の後方に登場。佳子は泣いている。

【2019年初夏・相川顕吉氏葬儀】

チヨコ あっ
顕吉さん……
美鈴 ……
佳子 ……ねえ……どうして、泣かないの……？
美鈴 ……
佳子 貴女のお父さんが死んだのよ……？どうして、泣かないの……
美鈴 ……
佳子 貴女はいつもそう

佳子、退場。美鈴、俯く。チヨコ太郎、滅茶苦茶気まずい。間。

チヨコ えっと……（頭を押さえる）うっ……ここは何処……私は誰……？

チヨコ太郎、頭を抱え、壁の中に消える。

美鈴 ……「ごめんなさい

暗転。開演。

1

【2019年晩夏・によぜがもん如是我聞不動産】

電話の呼び出し音。

庵声 はいはいはいはい

明転。電話を持った庵、登場。

庵

あ、自分で持ってたー。がちやつ。大変お待たせ致しました！如是我聞不動産の天島庵でございます！あ、でも私、もうすぐ天島庵ではなくなってしまうんです。私、実はもうすぐ、結婚するんです！結婚して、天島ではなくなってしまうんです！キャツ！え、何々？じゃあその、新しい苗字を教えろよ。この、うっかりさんめ！ですって？いやー、教えたのは山々なんですけど、私、実は、結婚と同時に、寿退社してしまうんです！キャツ！言っちゃった！！だからせめて、「ニ」では最後の最後まで天島庵で通そうかなあつて

スマホを持った洋美(電話の相手)、登場。思い詰めている様子。

洋美

あの！

庵

はい？

洋美

高級マンションを購入したいんですけど……！

庵

はい………え？

曲。洋美と庵、電話をテーブルの上に置いて向かい合う。

洋美

よろしく願います。津島です

庵

よろしく願います。天島です。え、やだー。何か、思い詰めてません？顔色、

洋美

凄く悪いですよ？

庵

そうですね

洋美

仕方がないなあ。私が幸せを分けて

庵

私はその事に気がついたのは、私が4歳の時でした！

洋美

何か急に始まった

佳子声

あの日、私は家族と一緒に、ショッピングモールに来ておりました

洋美

洋美ー。こっちだよー

洋美

お姉ちゃん待ってー。と、その時です

車、出てきて洋美を轢く。

洋美

ぐはあ！

車

あ、やべ

佳子声

洋美ー……？

洋美

私は、生まれて初めて車に轢かれました

庵 下のお名前、洋美さんって言うんですね

洋美 感想そこかよ。驚くべきはこの時、私のすぐ傍に、母と父が居たという事です。何なら私は母と手をがっつき繋いでいたし、お姉ちゃん待ってー。とは言ったものの、私はまだ車道に飛び出してすらいなかった。いや、飛び出す直前だったけど。そう。つまり、車の方が一方的に、私に向かって突っ込んで来たのです！

庵 あらま

車 悪気はなかったんだよう(退場)

洋美 私は全身打撲と肋骨を折る重傷。なのに、私とがっつき手を繋いでいた母は無傷。こんな荒唐無稽な事、普通あると思いますか？ありませんよね普通？

庵 ウケる

洋美 だから私、その時悟ったんです。ああ、私の人生はつまり、こんなもんならってあらま

洋美 まあ実際こんなもんでしたよそれからも。勉強もスポーツも、何だって頑張った。なるべく良い子でいようと家のお手伝いも積極的にならして来たし、社会のルールも絶対に守ってきた当たり前だけど。大学だって奨学金を借りて自力で通った。新卒で就職先も決めた。無論年金も税金も滞りなく全額支払ってる！！なのに、みんなから愛され、注目されるのはいつも姉の方。あと、男にモテるのも姉の方。私の彼氏達はみんな、私が意外と面倒臭い女である事に気づいた瞬間去って行く。みんなそう！姉の男達は正反対なのに

庵 姉って、さっき声だけで登場してきた人？(佳子の真似をする)

洋美 そうその人！！いや、別に姉が何も頑張っていないのに愛されるとか、そこまです言っつもりはないんです。ただ、私と違って、ほんのちよつとの努力で愛されやがってと言いますか、可憐で？儂げな？雰囲気を出せる人って、なんてムカッ

庵 (遮って)あーあーあー分かります分かります！ムカつきますよねー、そういう可愛いだけでチャホヤされてる女達

洋美 分かりますか？

庵 分かりますよー。まあ、全然努力してないとは言いませんけど

洋美 うん。うん

庵 だからこそ堂々と責められなくてムカつくって言うか
ええ、ええ

洋美 私なんかダーリンからよく言われますもん「お前は一人でも、てか、サバンナでも生きていけそうだな」って

洋美 えー、貴女も言われたんですかサバンナー

庵 えー、洋美さんも言われたんですかサバンナー

洋・庵 かわいそーう

洋美 てか、姉だけじゃないんです。うちの会社にも居るんですよそういう女。しかもそいつ、姉と違って醜女なのに

庵 シンコメ？

洋美 はい。みにくく、すさまじい女。黄泉の国の女鬼の類です

庵 何それこわーい
洋美 なのにあの女、仕事もろくに出来ない癖に男達からチャホヤされて
庵 仕事。あ、そうでしたこれ仕事中心でした
洋美 そうでした高級マンションを購入したいんでした私
庵 では改めまして、どんなマンションをお探ですか？
洋美 高級マンションです
庵 ザックリすぎる
洋美 とにかく高級なら何でも良いんです。今まで実家暮らしだったんで、頭金と引越
庵 越し代くらいは貯金あります。多分。ちなみに、年収は約300万です
庵 安っ！？
洋美 はい
庵 あ、すみません。驚きすぎてつい本音が。え、300万？
洋美 はい
庵 それで、高級マンションを？
洋美 はい。これで、高級マンションを……
庵 いやいやいや、普通のアパートとかにしておきましょう？都内でも月々7、8万
庵 もあればそれなりの所には
洋美 いいえ。高級マンションが良いんです。月々の返済15万までは出せます
庵 正気ですか？
洋美 正気です。いいえ、狂ってます
庵 どっちー？
洋美 どっちもです。正気のまま狂ってます私。だからですね、もう疲れちゃったんで
庵 す人生。だから
洋美 そんな！死なないください……
庵 話を聞いてー。だから私、この息苦しさから解放される方法を必死に考えて
洋美 考えて考えて、そして、気がついたんです。そもそも最初から、何も期待しな
庵 れば良いのでは？と
庵 ほう
洋美 努力が報われる事、誰かに気にかけてもらえる事、自分より努力していないのに
庵 愛されている誰かの存在。それらに捕らわれているから辛いのであって、それら
洋美 欲望や贅沢を振り切って解脱する事さえできれば、私も楽になれるのではない
庵 かと思ひまして
洋美 贅沢、ですか
洋美 はい。贅沢です。生きてるだけでも幸せ者なのに、それ以上を望むだなんて。
庵 知ってますか？贅沢って、贅が、沢山あるって意味なんですよ
洋美 あれ、馬鹿にされてるのかな？
庵 贅。つまり、おごり。不必要なもの。無駄なもの。生きて行く上で必要ながない
庵 余計なもの特にサバンナでは……
庵 ー、ー、日本だぞ

洋美　むしろ、贅なんかがあるからこそ、人は息苦しくなっていると思うんですよね私。例えば私、自分の事をずっと、醜いアヒルの子だと思ってきたんですけど

庵　え、人間ですよ？

洋美　アンデルセン童話の、醜いアヒルの子みたいに、今は醜いアヒルの子でも、いつかは美しい白鳥となって、本当の仲間達と一緒に、幸せに向かって羽ばたけるのではないのかって

庵　人間ですって

洋美　それだけを頼りに今まで頑張ってきたのに……私は、ただの、汚い、普通の、アヒルの子だったのです

庵　人間の子ですよ……(飽きてきた)

洋美

今更そんなクソつまらない事実、受け入れられると思いますか？がっかりですよ。今までの人生を返してくれて感じてですよ。でも、思っただけです。そもそも、こんな童話さえ知らなければ、それ以前に、期待とか希望とか夢とかそういうの？最初から持っていなければ、こんなに苦しむ事もなかったのでは？と。だから、私、距離を置く事にしましたんです。贅と

庵

洋美

はあ　贅と距離を置いて、欲望とおさらばする事。これからも、生きていく為に。これが、私の願いです

庵

そうですね。そりゃあ大変だ。でも津島さん。贅と距離を置きたいなら、なんで高級マンションなんですか？仕事を辞めて、その辺の河川敷に段ボールハウスでも建てて、楽しいホームレスごっこにでも興じれば良いじゃないですか

洋美

酷い奴を雇っているなあこの不動産会社は！？いいえ。それはしません。何故なら私は、姉と違ってかまってちゃんではありませんので

庵

私、津島さんのお姉さん、知らないんですけど

洋美

河川敷に段ボールハウスなんか建設しちゃったら、みんなから心配されちゃうじゃないですか？そんなかまってちゃんみたいな事、私には無理です……

庵

はあ

洋美

だから私考えたんです。最善策を。そして、導き出したんです。高級マンションを購入するという最適解を。高級マンションに暮らして、半強制的にローン地獄に陥って、最低限の生活費で細々と暮らす。これで贅沢とは距離を置きつつ、高級マンションのお陰で誰にも極貧生活を悟らせない。どうですか？素晴らしい。

素晴らしすぎるでしょうこの計画……我ながら感動でむせび泣きました！むせび泣いてないけど……

庵

だからどうですか。まあ、そういう事なら良いですよ。とびっきりのマンションを「紹介させていただきます

洋美

本当ですか！

庵

はい本当です。私もこれが、天島庵としての最後の仕事になると思いますので。

洋美

誠心誠意、努めさせていただきます

洋美

あ、そう言えば「結婚されるんですけどっけっおめでとっけいびいびい

庵 ありがとうございます！でもですね津島さん。この世界は、津島さんが思っている程、残酷ではないんですよ。私も、今までいっぱい辛い事がありましたけど、それでも今は、見ていただいたて分かる通り、幸せ、いっぱいです！ぶふっ(幸せ笑い)

洋美 はっ倒してえい

庵 そうー幸せは、頑張っていれば、いつか必ず辿り着くものなんです！だから津島さん。しばらく距離を置いて、頭の中がすっきりしたら、また、よりを戻してあげてくださいね？

洋美 より？誰とですか？

庵 誰、っていうか、ほら、さっき津島さんが言ってたあれ！贅沢……いや、贅とです贅！

洋美 はあ

曲。照明変化。オーピング。

柳子、佳子、美鈴、亜耶、登場。庵と共にタイトルテロップを出す。

『ぜいはあ、』

柳子、佳子、退場。美鈴、同じく退場しようとする亜耶を呼び止める。

亜耶、立ち止まるも、やがて小走りに退場。美鈴、重い足取りで退場。

2

庵 流石に、津島さんが想像されている様な高級マンションのご紹介は難しいんですけど、津島さんが宜しければなのですが、所謂、いわくつきの物件でしたら、直ぐにご紹介可能です。通常よりお安くありますし、いや、お安くなってしまっんですけど、その分、いわくつきの事故物件ですから。まさに、津島さんがおっしゃられていた、外から見たら極楽・内から見たら地獄！ご期待に添えると思います！

どうやらですね、本当に出るらしいんですよ。幽霊……

庵、退場。

洋美、ソファーに座っている。

【2019年9月・ロマネスクタワー・305号室】

洋美 あー、極楽極楽……いけない。贅沢は敵贅沢は敵贅沢は敵贅沢は敵贅……

野乃花、登場。

野乃花 先輩？大丈夫ですか先輩！？

洋美 うおっ！？あ、野乃花……うん。全然平気大丈夫何でもない何でもない

野乃花 全然大丈夫そうには見えませんでしたよ？

洋美 気にしないで。良くある事だから

野乃花 もう。先輩は、いつもそう

洋美 いつも？

野乃花 大丈夫とか、平気とか、何でもないとか。本当は、全然大丈夫じゃないくせに。先輩は、もつと素直になった方が良いです。後輩の私なんか、言われたくないかもですけど

洋美 ありがとう。でも、本当に大丈夫だから。私、強い女だし

野乃花 そうですね。先輩は、私なんかと違って強い女です。でも、だからこそ私、心配なんです！

洋美 野乃花

野乃花 私、先輩の事、本当に感謝してるんです。だって、私がここまで仕事を頑張つてこられたのは、先輩が、いつも私を庇ってくれたからです。こんな、仕事も何も出来ない、ドジでノロマな亀、さっさと見捨てちゃえば良かったのに……
そんなの、あんたの上司なんだから当たり前でしょ？

野乃花 当たり前なんかじゃないです。他の人達は、先輩程優しくなかったです

洋美 別に私も優しくなんか

野乃花 いいえ、優しいです。津島先輩は、優しい。ほら、私、こんなだから、女の子から嫌われやすくて。でも、先輩だけは他の女どもと違いました。こんな私にも、分け隔てなく接してくれて、私、どれだけ救われたか。だから、絶対に幸せになつてほしいんです先輩には。いや、幸せにならなくちゃ駄目なんです先輩は！

野乃花……ごめんなさい。私、あんたの事、少し誤解してた

野乃花 誤解ですか？

洋美 ううん。気にしないで

野乃花 はい。あ、じゃあ私、そろそろ行きますね

洋美 え、もう行くの？

野乃花 はい。人を待たせてるんで

洋美 そっか。でも、本当にありがとうね。こんな立派なインテリア、ただ同然で譲ってくれて

野乃花 良いんです。いつもお世話になってますから

洋美 にしてもこれ、え？本当に大丈夫なの？殆ど新品じゃない？

野乃花 大丈夫です。私の叔父も、先輩のお役に立てて、きっと天国で喜んでます

洋美 あれ、そういう経緯だったっけ？

野乃花 え？あ、はい。あれ？もしかして、そういうの、ダメな人ですか？

洋美 い、いや、全然。むしろ、この部屋自体がそんな感じだし

野乃花 え！？こゝ、事故物件なんですか！？

洋美 まあ、なんか、たまに出るらしくって

野乃花 え、怖い。私、そういうのダメな人なんですよー

洋美 お、おう

野乃花 というわけで、今度こそ行きますね。幽霊も怖いし

洋美 お、おう
野乃花 先輩、グット・ラック
洋美 お、おう

野乃花、退場。

洋美 幸せ。かあ…………

洋美、溜息を吐く。佳子(回想)、登場。

佳子 また溜息？

洋美 ……

佳子 溜息なんか吐いて。幸せが逃げちやっても知らないんだから

洋美 ……

佳子 ねえ洋美。私さ、そろそろ…………戻っても、良いかな？

洋美 ……

佳子 私、また、家族4人で暮らしたい。お父さんと、お母さんと、洋美と！

洋美 ……

佳子 お父さんもお母さんも、怒って、はいなかったけど…………いや、怒ってたか。

洋美 あれは。ねえ、まだ怒ってるかな？流石にもう、時効かな？

洋美 知らないよ

佳子 顕吉さんも、死んじゃったし

佳子、泣く。

佳子 美鈴も、結婚するって言うし…………私、またひとりぼっちになっちゃった…………

洋美 これも、天罰なのかな？私はただ、信じただけなのに

佳子 美鈴んとこ行けば良いじゃん

洋美 行けるわけないでしょう？！私、あちろのご両親に、良く思われてないし

洋美 自業自得でしょ

佳子 ……ごめんなさい…………

洋美 ……怒ってないと思うよ

佳子 ？

洋美 父さんも母さんも、多分大丈夫だよ。お姉ちゃんの事大好きだし。むしろ、あれ

佳子 からずつと心配してたよ。お姉ちゃんと美鈴の事

洋美 ……そっか(嬉しそう)

佳子 ……うん

洋美 ありがとう。洋美は、やっぱり優しいね

洋美 別に優しくなんか

亜耶 うん
洋美 別に良いけど……え、いつ？
亜耶 あ、あのね、実は
洋美 ん？

洋美、不穏な空気が漂っている事に気がつく。

洋美 え、何これ……？
亜耶 洋美お姉ちゃん？
洋美 ごめん。かけなおす
亜耶 大丈夫なの？あ

洋美、LINE通話を切る。亜耶、退場。

洋美 何？何なのこの禍々しいオーラは……まさか、本当に、幽霊……？
チヨ声 うううう……うううう……
洋美 何か聞こえる……？
チヨ声 したい……ううう……したいよう……ううう……
洋美 何？何がしたいの？
チヨ声 ……つ……
洋美 え、な、何て？
チヨ声 こん……結婚……！
洋美 ケツコン……はい？
チヨ声 結婚したいよ……う……！……！

チヨ太郎、壁の中から登場。

洋美 ……
チヨ ふうふう……ぐすん……結婚したい……結婚したいよう……
洋美 ……
チヨ 結婚したい……結婚したいよう……
洋美 ……
チヨ 結婚し
洋美 おい
チヨ あ、はい？
洋美 あの……え、どちら様ですか？
チヨ ……え？
洋美 いや、え？じゃなくて
チヨ 僕の事、見えるんですか？

洋美 はい

チヨコ え、マジで？

洋美 マジです。はい

チヨコ あー、そっかー。見えちゃうのかー。そりゃまいったなー

洋美 あの

チヨコ はい

洋美 え、どうやって、入ったんですか？

チヨコ え？

洋美 この部屋

チヨコ どの、どうやっても何も……最初から居ました

洋美 はあ？

チヨコ 最初から居ました。ずっと、ここに、最初から

洋美 最初って、いつ？

チヨコ 最初は最初です。最初からです。僕、この部屋の、地縛霊なんで

間。洋美、チヨコ太郎の頬を。ペチ。ペチする。

チヨコ あはは。結婚したい。あはは。結婚したい。あはははは。結婚したい

洋美、スマホを手に取る。

チヨコ どうです？結構モチモチしてたでしょ？

洋美、警察に電話しようとする。

チヨコ ちよいちよいちよいちよいちよーい！……！

チヨコ太郎、必死にそれを止める。

洋美 ちよつと

チヨコ 今、どこに何をしようとしたのかな？

洋美 普通に、警察に通報ですけど

チヨコ そんな馬鹿な事はお止めなさい！

洋美 はあ？

チヨコ 僕は地縛霊ですよ？そんな馬鹿な事をしたら、キチガイ扱いされるのは、僕で

洋美 はなくて、貴女の方なんですよ？

チヨコ 別にそれで良いですけど

洋美 ちよいちよいちよいちよいちよーい！……！
うるせえ！

亜耶、背負っていたリュックの中から、カエルのパペットを取り出し、右手に嵌める。

亜耶 (カエルを操って)オイラからもお願いするぜ

洋美 はい？

亜耶 (カエルを操って)お願いだよ姉御。亜耶の事、置いてやってくれよー。やー！

亜耶、洋美にカエルのパペットを見せつける。洋美、カエルのパペットを優しくヒンタ。

亜耶 (カエルを操って)あー！

洋美 亜耶ちゃん。真面目にやって

亜耶 (カエルを操って)ふざけるな。亜耶はいつでも真面目だぜ

洋美 亜耶ちゃん

亜耶 (カエルを操って)金だつてちゃんとあるんだぜ
洋美 金？

亜耶、リュックから通帳を取り出し、洋美に見せる。

洋美 !??どうしたの、こんな大金……

亜耶 (カエルを操って)遺産だぜ
洋美 遺産？

亜耶 (カエルを操って)亜耶の、お父さんだった人の遺産だぜ

間。何とも言えない空気が漂う。チヨ太郎、亜耶が持ってきたお菓子が入ったビニール袋から、気になるものを発見する。

チヨ (亜耶に)あの一、駄目元ですみません

亜耶 はい??……ひいつ!?

洋美 おま

チヨ あ、見えた。つかぬ事をお伺いしますが(ビニール袋を示して)これ、何ですか？

亜耶 二、二れ??

洋美 ごめん亜耶ちゃん。そいつは

亜耶 これは、お菓子

チヨ オカシ?オカシとは何ですか？

亜耶 ひっ

洋美 相手しなくて良いから

亜耶 でも

チヨ ねえ、オカシって?オカシって何?何!?!あ、結婚する!?!

亜耶 ううう……

洋美 ちよっと、二の子、怖がってるでしょ!?!

チヨ あ、これは失敬。つい熱くなつてしまいました僕とした事が……
亜耶 何これ。怖い(泣く)
洋美 ああつ。何か、ごめん……
亜耶 え、何これ？え？幽霊？
洋美 え？
亜耶 凄く怖いんですけど……
洋美 亜耶ちゃんには、こいつ(チヨ)太郎(が、幽霊に見えるの？
(頷く)
洋美 そうなの？どこからどう見たって、ただの小太りのおっさんじゃない？
チヨ 失敬だな君は
亜耶 おっさん？そいつ、おっさんなの？
洋美 どこからどう見てもそうでしょう？
チヨ まあまあまあ。落ち着きなさい2人共
洋美 は？(ガチギレ)
チヨ 怖い。えーつと、亜耶さん、でしたっけ？
亜耶 (カエルを操って)オイラの名前は(アドリブで名前)だぜ！亜耶の、唯一の親友。
かれこれ、20年来の付き合いだぜ！
チヨ わーお(アドリブで名前)さん。貴方には僕が、どんな風に見えていますか？
洋美 (カエルを操って)なんか、どす黒い、人型の排気ガスみたいに見えるぜ
それは怖い
亜耶 (カエルを操って)ああ。滅茶苦茶怖いぜ
チヨ とまあ、亜耶さん
亜耶 (アドリブで名前)
洋美 (アドリブで名前)さんの話から分かる通り、僕は、人によって見え方が変わるんです。洋美お姉ちゃんの様にしたたのおっさんに見えたり
お姉ちゃん言っの止める
チヨ (アドリブで名前)さんの様に、影と声しか認識出来なかったり
亜耶 それは、私達に靈感があるって事ですか？
洋美 何でちよつと嬉しそうなの？
チヨ お2人に靈感があるかどうかは分かりませんが、まあ少なくとも、お2人が、僕に近しい存在であるという事は分かります
亜耶 近しい存在？
チヨ この世よりも、あの世に近しい存在という事です
洋美 ふーん(カエルを操って)そうなんだ
……………
チヨ とここで、オカシって何なんですか？
亜耶 (カエルを操って)お菓子はお菓子だぜ

亜耶、リュックの中のビニール袋から、お菓子を取り出す。

亜耶 (カエルを操って) うんしょ。うんしょ。ポテチだろ？ラムネだろ？ガムだろ？チョコレートだろ？

チヨコ それ!!!

亜耶 (カエルを操って) あ？

チヨコ それ(チヨコレート)、僕の事を最初に見つけてくれた人が、よく食べてたんです

亜耶 (カエルを操って)(チヨコレートを?)

チヨコ チヨコレートって言うんですね、それ

亜耶 (カエルを操って) ああ。食べるか？

チヨコ いえ、僕、結婚したいだけの地縛霊なんです

亜耶 (カエルを操って) あそっか

チヨコ すみません。あ、結婚します？

洋美 ねえ、亜耶ちゃん

亜耶 (カエルを操って) 何だよ？

洋美、亜耶の右手から、カエルのパペットを奪った。

亜耶 あっ！

洋美 どうして、家出して来たの？

間。

亜耶 聞いても、よく分からないかも……………

洋美 別に良いよ。亜耶ちゃんの言葉で、ちゃんと説明して？

亜耶 うん……………実はね

回想シーン。前日の金田家。

亜耶 (カエルを操って)(ここは何処？オイラは誰？……………昨日はバイトがお休みで、一日中暇だったので(アドリブで名前)を使って、アイデンティティの確立について考えていました(カエルを操って)分からない。分からないんだぜ……………! そうだ!(アドリブで別の名前をお願いします)に聞いてみるんだぜ!(アドリブで別の名前)は、(アドリブで名前)の双子の妹です(カエルを操って)あれー?(アドリブで別の名前)ー?おかしいな……………いつもはこの辺に……………あれ? マジで居ない?あれ……………?)

柳子、ウキウキしながら登場し、ドアをノックする(マイム)

柳子 コンコンコン。亜耶。入っても良い？

亜耶 はっ(カエルを操って)うるせえババア!入って
柳子 がちゃっ

亜耶 (カエルを操って)来た!?!ふざけんなババア馬鹿!何で勝手に入って来るんだ
よ!?!?

柳子 ちゃんとフックした上に許可も取ったわよ?

亜耶 (カエルを操って)判断が早すぎる!人の話は最後まで聞けよババア!

柳子 ごめんちゃい。ねえ、亜耶。何か、気づかない?

亜耶 (カエルを操って)はあ?

柳子 ヒント1!お母さんの趣味は、断捨離です

亜耶 (カエルを操って)だから?

柳子 ヒント2!ほらあ、よく見てー?亜耶のお部屋、昨日より少し、広くなってると思わない?

亜耶 (カエルを操って)……まさか

柳子 ヒント3!カエルさんです

亜耶 (アドリブで別の名前)……!?

柳子 おやおやおや。もう、気づいちゃったかな?

亜耶 (アドリブで別の名前)……何処にやったの?
柳子 捨てました

亜耶 え?

柳子 亜耶の為に、捨てました

亜耶、膝から崩れ落ちる。

亜耶 (アドリブで別の名前)……

柳子 亜耶……(亜耶を抱き締める)ごめんね。辛いよね?苦しいよね?(アドリブで別の名前)も、(アドリブで名前)も、亜耶の大切なお友達だもんね。でもね、

亜耶。この世界には、私達よりも貧しくて苦しい思いをしている人達が
沢山居るの。だから、亜耶。お母さんと一緒に、この悲しみを乗り越えよう?私
達、たった2人だけの親子なんだから……

え、待って待って待って。ちよつと待って?

何か?

何か?じゃない。え、あの……え?私がおかしいのかな

柳子 亜耶はおかしくない!

亜耶 だよ

柳子 亜耶……(亜耶を抱き締めよつとする)

いらないぞついついのいらない

えー?

亜耶 えー?じゃない!あのさお母さん。私、全然分からないんだけど?

柳子 分からない?何が?

亜耶 (アドリブで別の名前)を捨てた理由
柳子 だから、亜耶の為に、捨てました
亜耶 (アドリブで別の名前)を捨てる事が、どうして私の為なの？
柳子 それは……亜耶の為だからよ
亜耶 答えになつてない
柳子 でもね、亜耶。この世界には、私達よりも貧しくて辛い思いをしている
人達が
亜耶 話逸らすの下手か！？酷いよお母さん。(アドリブで別の名前)が私にとってど
んな存在か、お母さん、よく分かっているでしょ？
柳子 ええ、分かっているわ。お母さん、よく分かっている
亜耶 じゃあ、どうして
柳子 だから、捨てました

間。亜耶、頭を抱える。

亜耶 お母さんは、どうして……
柳子 ……お母さんは、いつでも、亜耶の味方よ？
亜耶 ……もう良い
柳子 もう良いの？
亜耶 良い。私、出て行く
柳子 出て行くの？
亜耶 出て行く！(カエルを操って)ふざけんよ断捨離ババア！
柳子 ま、待って！出て行くなら、お母さん、お弁当作るから
いらねえよバーカ……あ！(カエルを操って)いらねえよバーカ……
柳子 亜耶……
亜耶 もう、何も信じない………！！

亜耶、リュックを背負ってダッシュで逃げる。回想終わり。

【2019年9月・ロマネスクタワー・305号室】

亜耶 そして、私は近場のネットカフェで一晩頭を冷やしつつ、今後どうするかを(アド
リブで名前)と会議した結果、洋美お姉ちゃんのマンションに、居候する事を決め
たのです
洋美 勝手に決めるな
亜耶 ええ？駄目？
洋美 駄目。確かにちよっと可哀想だったけど。今すぐお家に帰りなさい
亜耶 せめて一週間……いや、5日……いや、3日だけでも
チヨリ 少しくらい良いじゃないですか
洋美 お前は黙ってろ

亜耶 ほら、チヨコ太郎も良いって言ってるじゃん

洋美 チヨコ太郎？

亜耶 (チヨコ太郎を指し示して)「こいつ。チヨコに興味を示したからチヨコ太郎

チヨコ やったー。チヨコ太郎だー。これで結婚できるぞー

洋美 勝手に名付けるな、お前(チヨコ太郎)も喜ぶな。何だよさつきから結婚結婚って

チヨコ いやあ、名前とか、死んでから初めて戴いたので多分。あ、結婚というのは

洋美 あのね、亜耶ちゃん

チヨコ 無視！

洋美 確かに意味は分からなかったけど、事情はよく分かった。でも、今日の所はとり

あえず帰って。私も色々と準備があるし

亜耶 大丈夫！私、床でも何処でも寝れるから

洋美 そういふ事じゃなくて。てか、何処でも眠れるなら、それこそ一週間ネットカフェ

に泊まれば良いじゃない。お金もいっぱいあるんだし

亜耶 それは(カエルを操ろうとする)

洋美 カエルに頼るのは止めなさい。ねえ、どうして、うちに来たの？

間。

亜耶 ネットカフェだと……

洋美 ネットカフェだと？

亜耶 ……お母さんが、見つけにくいかなあって……

柳子 亜耶………！

洋美 やっぱりね。本気で家出するつもりじゃなかったんじゃん

亜耶 そういふ訳じゃ

洋美 本気じゃないなら、ますますお断り致します

亜耶 そんな

柳子 待って洋美ちゃん。亜耶は亜耶なりに、いっぱいいっぱい考えた結果、この結論を

出したんだと思うの

洋美 え？

亜耶 お母さん

洋美 え？

柳子 どうかお願い。もっと、亜耶の話を聞いてあげて？

亜耶 良いよお母さん。私が悪いの

洋美 え、待って待って待って。ちょっと待って？

柳子 何か？

洋美 何か？じゃなくて。え、あの……え？私がおかしいのかな……

柳子 洋美ちゃんはおかしくない！

洋美 それは重々分かってます！

亜耶 !??お母さん!??(カエルを操って)いつから「」

洋美 今気づいたのかよ

柳子 ついさっきからよ。えっと、ドアが開いてたから、勝手にお邪魔させて戴きましたえ？ちよっと

亜耶 (カエルを操って)通りで回想シーンのお母さん、なかなか消えないなあって思ったんだぜ

チヨコ (ホスト風に)あの、初めまして。結婚したい地縛霊ナンバーワン・チヨコ太郎ですおい

洋美 あら？何処からともなくおっさんの声がいはい。僕の声です。初めまして、亜耶さんのお母さん。僕と、結婚しませんか？

チヨコ 見境なしか
柳子 初めましてー。何処に居るか分からないけど

亜耶 (カエルを操って)お母さんにはチヨコ太郎、見えないのか？
柳子 ええ。でも、声は何となく聞こえるわ

亜耶 (カエルを操って)ふーん
洋美 あの、柳子さん

柳子 ねえ、亜耶
亜耶 (カエルを操って)(アドリブで名前)だぜ

柳子 (アドリブで名前)、(アドリブで別の名前)を捨てられた時、貴女、どう思った？
亜耶 どう思ったって……(カエルを操って)もちろん、100%悲しかったぜ

柳子 嘘おっしやい！
亜耶 (カエルを操って)嘘じゃねえぜ！本当だぜ……！

柳子 じゃあ、どうして、本気で悲しまないの？
亜耶 (カエルを操って)はあ？

柳子 (アドリブで名前)は引っ込んでなさい！

柳子、カエルのパペットを投げ飛ばす。

亜耶 (アドリブで名前)ー！？

柳子 待って。行かないで亜耶。行くならお母さんを倒してから行きなさい
亜耶 ううう。意味が分からない……やあ……(柳子と相撲を取る)

柳子 大丈夫。お母さんも流石に、見切り発車よ
チヨコ のこったのこった！のこったのこった！

洋美 あの、……、私のうちなんですけど……
柳子 ええい！

亜耶 あう！

柳子、亜耶を投げ飛ばす。

チヨコ 結婚投げで

洋美 (チヨコ太郎を叩く)
すみません

チヨコ (アドリブで名前)……………(アドリブで別の名前)……………

亜耶 亜耶、どうっ？悔しっ？

柳子 (頷く)悔しい

柳子 嘘おっしやい！

亜耶 嘘じゃない

柳子 嘘。本当は、悔しくとも何ともない。そうでしょうっ？

亜耶 ううう……………

柳子さん、そろそろ、その辺で

洋美 洋美ちゃんは黙ってて。これは、私達、金田家の問題なの

洋美 はい。まあ、ここは私のうちなんですけどね、はい

亜耶 私、どうしたら良いの……………？

柳子 どうしたら良いと思うの？

亜耶 分からないよ……………

柳子 分かるわよ。だって、亜耶はもう大人でしょうっ？今年でもう、25歳でしょうっ？

チヨコ ええ！！？結婚適齢期

洋美 黙ってる(チヨコ太郎を叩く)

チヨコ すみません。適齢期……………

亜耶 25歳だけど……………分からないよ……………

柳子 そんな事ない。本当は、分かっているはずよ。だって、亜耶は昔から、賢い子だったじゃない。お母さん、分かっているわ。お母さん、よく分かっている

亜耶 無理だよ。買い被りすぎだよ……………

柳子 亜耶は、あれもこれも大切にしすぎなのよ。だから、本当は分かりすぎるくらい分かっているくせに、分からないと思ひ込んでやるの。(アドリブで名前)や(アドリブで別の名前)で誤魔化しちゃうの。分からないふりをする為に

亜耶 そうなのかな？

柳子 そうよ。だから亜耶、お母さんと一緒に、断捨離しましょう！

亜耶 ……………え？

柳子 お部屋の乱れは心の乱れ。良いわよく断捨離。何もかもがすっきりするし、無駄な物を捨てる事で、本当に大切なモノも見えてくるし

亜耶 ヤダ

柳子 ……………ヤダ？

亜耶 断捨離は、ヤダ。お母さんみたいなのは、なりたくない

柳子

亜耶

柳子

亜耶

間。柳子、俯く。

洋美 ちよつと、亜耶ちゃん

亜耶 私も変なのかもしれないけど、お母さんだって十分変だよ。何でもかんでも断捨

離断捨離って。そうやって、お父さんの事も、簡単に断捨離して
亜耶ちゃん！

柳子

(笑う)そうね。確かにそう。お父さんも、断捨離しちゃったわね

亜耶

そうだよ。お父さんの物、全部！写真もホームビデオも、お父さんの生きてた
証、全部全部！

柳子

全部じゃないわ。(アドリブで名前)がまだ、残ってるでしょう？

亜耶

(アドリブで別の名前)は捨てたじゃん！

柳子

同じのが2つあったって仕方がないでしょう？

亜耶

同じのじゃない！全然違う！

柳子

どこが？

亜耶

どこがって、汚れ具合とか

柳子

(笑う)何を言ってるの？見分ける事もできないくせに

亜耶

え？

柳子

あの子(カエルのパペット)、本当に、(アドリブで名前)なの？

亜耶

まさか……………！？

亜耶、投げ飛ばされたカエルのパペットの所に行こうとするも、柳子から足止めを
くらう。相撲再開。

洋美

ちょっと!？

亜耶

畜生……………ん畜生……………

柳子

ほらね、貴女はいつもそう。自分の大切なモノが何なのか、何一つ分かっていない
の。自分が信じたモノが何なのか、何一つ知ろうとしないの。こんなんじゃあ、

お父さんだって、死んでも死にきれないんだから！

亜耶

おおおおおお!!

チヨコ

や、止めろーう！

チヨコ太郎、亜耶と柳子の間に入る。亜耶、咳込み、チヨコ太郎から離れる。

亜耶

ゲホゲホ！排気ガス臭え!？

チヨコ

え、マジで？

亜耶

いや、あの、臭くはないんだけど、なんか、雰囲気で

チヨコ

お婿に行けない(落ち込む)

亜耶

あ

亜耶、カエルのパペットに駆け寄り、よく確認する。

亜耶

やっぱり(アドリブで名前)じゃん……………(カエルを操って)おい、変な言いがかりつ
けてんじねえぞこの断捨離、ババア！

柳子 そうね。この子は、(アドリブで名前)ね
亜耶 (カエルを操って)どうして嘘なんか
柳子 信じたくせに
亜耶 (カエルを操って)あ?!!
柳子 自分が信じた事よりも、私が言った事、信じたくせに

間。

チヨコ ………あのー
洋美 空気読めよ
チヨコ すみません…………でも気になるんでやっぱりあのー
洋美 おい
チヨコ 何があったんですか?
亜耶 何が?
チヨコ さつきから意味深なワード、ちよいちよい飛び交いすぎなんですよ。気になるしやないですか?僕だけ部外者なんですよ?その所、どう思いますか洋美さん
洋美 知らねえよ
チヨコ 冷たい…………
柳子 話してみたら?
亜・洋 え?
柳子 亜耶の事、今までの事、今、亜耶が考えている事。とにかく、全部話してみたら?
亜耶 そんな、簡単に言われても
チヨコ 僕、聞きたいです!お願いします!
亜耶 (洋美を見る)
洋美 ………良いよ。話しなよ
亜耶 ………ありがとう

3

曲。照明変化。美鈴、佳子、登場。
洋美、何か突っ込もうとしたが、止める。

【亜耶が考えている事】
回想シーン。亜耶と美鈴の小学校の入学式から。

柳子 亜耶!? 駄目でしよう。カエルさんなんか持ってきて
亜耶 え?(自分の手を見る)あ
柳子 亜耶は今日から小学生になるんだから。カエルさんは、駄目よ?
亜耶 そんな
柳子 お母さんが、預かっついてあげる

柳子、亜耶からカエルのパペットを奪おうとする。亜耶、思わず大きな声を出す。

亜耶 あ

亜耶、柳子の後ろに隠れて恥ずかしがる。やがて、美鈴と佳子の姿を見つける。
美鈴と佳子、俯いている。

亜耶 とても、可愛い子になって、とても、綺麗なお母さんになって、思いました

亜耶、柳子と佳子を見比べて溜息を吐く。

柳子 何よ？

何でもない

柳子 ……もしかして、あの子(美鈴)とお友達になりたいの？

亜耶 えっどうして？

柳子 だって、ずっとあの子の事を見てるから

亜耶 お母さんは私の事をよく分かっている。お友達になりたいかどうかはまだ分かんなかったけど、私は、みーちゃんに話しかけてみたい気持ちでいっぱいでした

柳子 話しかけてみたら？

亜耶 え？良いの？

柳子 駄目なの？

亜耶 だって……

柳子 亜耶が決めた事なら、お母さん、大賛成よ

亜耶、カエルのパペットを右手に嵌めたまま、美鈴に話しかけに行く。

亜耶 あの……

美鈴 ？

亜耶 あ

佳子 はじめまして

亜耶 あ

佳子 ほら、美鈴、ご挨拶は？

美鈴 ……

亜耶 あ、うっ……

美鈴 カエルさん？

亜耶 え

美鈴 カエルさん……はじめまして

佳子 美鈴、そっぢゃないでしょっつっっ

亜耶 (カエルを操って)はじめましてだぜ！

美鈴 !?!

佳子 あら

亜耶 (カエルを操って)オイラの名前は(アドリブで名前)だぜ！よろしくだぜ！

美鈴、笑う。亜耶も笑う。柳子、佳子に挨拶をする。

亜耶 これが、私とみーちゃんの出逢いでした

美鈴 あの時、私、凄く嬉しかったんだよ？私、幼稚園も保育園も通ってなかったから、
同じ年の女の子が話しかけて来てくれたの、亜耶ちゃんが初めてで
そうだったんだ

美鈴 うん。それまでは、お母さんと、お祖父ちゃんと、お祖母ちゃん。あと、洋美お姉
ちゃんとか、喋った事なかった

洋美 まあ、殆ど妹みたいなものだったしね
なるほど

チヨコ 私とみーちゃん。それから、佳子さんとお母さん……相川家と津島家は、
亜耶 家族ぐるみのお付き合いとなりました。私とみーちゃんは大親友。お母さんと
佳子さんは、ママ友？先輩と後輩？そして、洋美お姉ちゃんは、私達2人のお姉
ちゃんとなりました

洋美 なった覚えはないけどね

柳子と佳子、テーブルで談笑している。

佳子 良いんですか？こんなに沢山(お菓子)戴いちゃって

柳子 良いのよ。うっかり買いきちやっただけだから

佳子 すみません……

柳子 良いのよ。こんなにあったって、亜耶が虫歯になっちゃっただけだから

佳子 ありがとうございます

柳子 他にも、必要なモノがあったら、何でも言ってね？

佳子 はい……

柳子 あ、そっだ。今度の家族旅行の件だけ……

美鈴、カエルのパペットを持ってくる。

美鈴 じゃーん

亜耶 (カエルを操って)あー！？誰だそいつはー！？

美鈴 (アドリブで別の名前)

亜耶 (アドリブで別の名前)？

美鈴 うん。(アドリブで名前)の、双子の妹！(カエルを操って)私、(アドリブで別の名

亜耶 前)よろしくね、(アドリブで名前)
ああ(カエルを操って)よろしくだぜ！(アドリブで別の名前)

亜耶と美鈴、笑い合う。

亜耶 え、どうしたのその子？

美鈴 へへ。亜耶ちゃんのお父さんに買ってもらったんだ

亜耶 私のお父さんに？

美鈴 うん！(アドリブで名前)も、ひとりぼっちじゃ寂しいだろうって
ふーん

佳子、思い詰めた表情をしている。

柳子 ……佳子さん？大丈夫？

佳子 ……ごめんなさい

柳子 え？

亜耶 私とみーちゃんが小学4年生の時、それは、起こりました

柳子 亜耶

亜耶 何？

柳子、無言で亜耶を抱き締める。

亜耶 ……お母さん？

柳子 亜耶……ごめんなさい……

亜耶 何が？

柳子 ……お父さんね……佳子さんに、奪られちゃった……

亜耶 ……え？

佳子、泣きながら美鈴を抱き締める。

美鈴 どういう事……？

佳子 ごめんね……美鈴……

美鈴 亜耶ちゃんのお父さんは、亜耶ちゃんのお父さんでしょ？どうして、私のお父
さんになるの？

佳子 ごめんね……本当に、ごめんね……でもね、お母さん、顕吉さんの事、
本当に、愛してるの……愛してしまっただの……！

美鈴 ……私も……亜耶ちゃんの事、好きだよ……？

佳子 ごめんね……

美鈴 違うよお母さん。私、亜耶ちゃんの事、好きなの。大好きなの……

佳子 「ごめんなさい……………」

洋美(回想)、登場。

洋美 お姉ちゃん

佳子 何も言わないで

洋美 これで満足？

佳子 分かっているから

洋美 あんなにお世話になった柳子さん達を不幸にして、父さん母さんを悲しませて

佳子 ちよつと黙ってて

洋美 少しは人の気持ち

佳子 分かっているから！

洋美 分かっているでしょ

佳子 分かっているから！！私が一番分かっているから！！……………もう、放っておいて

よ……………

……………

洋美 私はただ、信じただけよ……………？

……………亜耶ちゃん。うちの馬鹿姉が、本当にごめんなさい。謝っても許されない事だと思っし、一生許さなくて良いと思っ。亜耶ちゃんは、亜耶ちゃん自身の幸せの事だけを考えていれば良いんだからね？何か困った事があつたら、私の事、これからも、頼ってくれて良いから

美鈴、亜耶に声をかける。

美鈴 亜耶ちゃん

亜耶 ……………

美鈴 あの、ね？私……………あの……………

亜耶 良かったね

美鈴 え？

亜耶 みーちゃんにもお父さんが出来て

美鈴 ……………

亜耶 みーちゃん、ずっとお父さん、欲しがってたもんね？

美鈴 知らない

亜耶 は？

美鈴 お父さんなんか、知らない。私は、亜耶ちゃんが
知らないって言うなあ！！

美鈴 ！？

亜耶 ……………ごめん(立ち去ろうとする)

美鈴 亜耶ちゃん！！

亜耶 (立ち止まる)

美鈴 ……私達……これからも、親友、だよな？

亜耶 (頷く)

美鈴 ……ありがとう

亜耶 ……ふざけるな。私とお母さんのお父さんを奪っておいでふざけるなあ……？

………って、素直にそう言えたなら、どんなに良かったでしょうか………

柳子 亜耶、今度の誕生日、何が欲しい？あまり高いものは買ってあげられないけど

みーちゃん

亜耶 え？

柳子 ううん………これ(カエルのパペット)、もう一匹欲しい

柳子 もう一匹？どうして？

亜耶 ………ひとりぼっちじゃ、寂しいでしょ？

柳子 ………そうね

亜耶 (カエルを操って)ゲロゲロ

柳子、亜耶の頭を撫でる。亜耶、ちよつと泣く。

美鈴

お久しぶりです。美鈴です。先日は、私達のお父さんの葬儀にご参列戴き、誠にありがとうございました。49日も無事に終わり、こちらもようやく落ち着いてきた所です。最近はいかがお過ごしですか？私は………こんなタイミングで、私の立場で言うべき事ではない事を重々承知の上で言いますが、実は私、今度、結婚する事になりました………それでね？私………本当にごめんなさい。私、どうしても、亜耶ちゃんにも、亜耶ちゃんのお母さんにも、結婚式に出て欲しい。更には言えば、亜耶ちゃんに、スピーチもお願したい………。沢山悩んだけど、やっぱり、私の親友は、亜耶ちゃんだけだから………ご検討、何卒、よろしくお願致します

美鈴、頭を下げる。亜耶が考えている事、終わり。照明変化。

【2019年9月・ロマネスクタワー・305号室】

チヨコ 結婚………

洋美 お前そればかりだな！

亜耶 私、どうしたら良いのかが分からなくて

洋美 行かなくて良いよ、そんなの

亜耶 それはそうなんだけど

美鈴 そんな

チヨコ う………(頭を押さええる)

亜耶 (カエルを操って)どうしたチヨコ太郎？

チヨコ 頭が………痛い………

亜耶 (カエルを操って)幽霊なのか？

チヨコ 幽霊なのに……頭が……痛い……結婚……したい……

美鈴 亜耶ちゃん、誰と喋ってるの？

亜耶 (カエルを操って)結婚したい地縛霊ナンバーワンのチヨコ太郎とだけ。見えな

間。亜耶、驚いて後ずさる。

美鈴 久しぶり、だね

亜耶 あ……

柳子 ごめんね。2人とも、どうしても亜耶に逢いたいって言うから

亜耶 2人？……あ

佳子 (頭を下げる)

柳子 回想シーンの美鈴ちゃんと佳子さん、なかなか消えないなあって思ったでしょ？

実は2人とも、さっきから玄関の方に隠れてて、登場するタイミングを今か今かとうかがっていたの

亜耶 て事は、さっきの私の話も……？

美・佳 (頷く)

亜耶 ジーザス！

柳子 ここに入って来られたのも、実は、佳子さんが作ってくれた合鍵のお陰なの

洋美 うち、オートロックだしね。て、合鍵？！

佳子 ごめんなさい。だって、せつかくまた一緒に暮らせると思ってたのに、引越すつて言うから……

洋美 それは悪かったけど、いやいや犯罪。犯罪だからそれ

佳子 そんな。実の姉を犯罪者呼びわりだなんて

洋美 猫かぶりしても駄目

亜耶 ひ、洋美お姉ちゃんも、気づいてたの？

洋美 まあ、うん。さっさと話し合いを終わらせて帰ってほしかったし

亜耶 そんな……

美鈴 亜耶ちゃん、ごめんなさい！

亜耶 え？

美鈴 私、いつも自分の事ばかりで、亜耶ちゃんの気持ち、ちっとも考えられてなくてそんな事

美鈴 ううん。そんな事あるよ。さっきの亜耶ちゃんの話聞いて、よく分かった。私、

亜耶 亜耶ちゃんに甘えすぎた。本当に、ごめんなさい

佳子 私からも謝ります。本当に、ごめんなさい。てか、元はと言えば、全部、私のせいだから

亜耶 それは

佳子 私が、頭吉さんを……亜耶ちゃんの、お父さんを……

亜耶 ……

美鈴 ごめんなさい

亜耶 良いよ、もう

美鈴 ごめんなさい。違うの。私ね、やっぱり

亜耶 良いって

美鈴 結婚式に

亜耶 だから良いって

佳子 お願います！美鈴の結婚式、出席してあげてください！！

亜耶 ！？

佳子 悪いのは全部私なんです！私は、亜耶ちゃん達に殺されても何の文句も言えない事をしてしまったけど、美鈴は、美鈴は！何一つ悪くないんです！厚かましすぎるお願いだと重々分かっています！お願います！お願います！お願います！

美鈴 お母さん

柳子 佳子さん、いきなりグイグイ行きすぎよ？

佳子 相川さん……泣くごめんなさい……

柳子 (笑つ)いやだ。今は金田さんよ。相川さんは、佳子さんの方でしょう？

亜耶 笑うな……！

間。亜耶、カエルのパペットを操ろうとするが、洋美がそれを止める。

亜耶、しばらく抵抗するが、やがて諦める。

亜耶 どうして、お母さんは、いつも、そうなの……？

柳子 そうなの？

佳子 亜耶ちゃん、それは私が

洋美 お姉ちゃんは黙ってて

佳子 でも

亜耶 どうしていつもそう他人事なの？お父さんを奪られて一番悲しいのは、お母さんなんじゃないの？

柳子 私だつてもちろん悲しいわよ

亜耶 嘘だ！！今だって、佳子さんの味方をして……お母さんおかしいよ。お母さん

柳子 が、一番おかしい……！

亜耶 そうね。私が、一番おかしいわ

柳子 断捨離のしすぎで頭おかしくなっちゃったんじゃないの……？

亜耶 断捨離の事を馬鹿にしないで……！

柳子 何故そこでキれる……ああそうだよ！何でもかんでも、自分の感情まで断捨離しちゃって

亜耶 何よ……断捨離の事をよく知りしないで悪く言って！お母さんはね、断捨離

柳子 が好きだから頭がおかしくなったんじゃないの。逆に、頭をすっきりさせる為に断捨離をしているの……！

佳子 相か、金田さん落ち着いて
洋美 ちよ
柳子 不倫女は引っ込んでなさい！
佳子 あひ(シヨックで気絶する)
洋美 お姉ちゃん！？
美鈴 お母さん！？
亜耶 ちよつと、お母さん言いき
柳子 何よ！？亜耶のお望み通りの対応をただけじゃない！
亜耶 そ、そうだけど
柳子 大体、亜耶も亜耶よ。もっとシンプルに生きれば良いのに、いつまでもウジウジウ
ジウジ
亜耶 お母さんがシンプルすぎるんだよ
柳子 本当、お父さんそっくりだわ
亜耶 え？
柳子 お父さんも、いつまでもウジウジウジウジしてて。だから私言っちゃったのよ。
美鈴 そんなに佳子さんの事を愛しているなら、佳子さんの所に行っちゃえば？って
え
亜耶 そうだったの？
柳子 したらお父さん、泣きながら少しだけ笑ってさ「ありがとう。お前は、佳子と
違って一人でも、いや、サバンナでも生きていけそうだな」って
洋美 柳子さん……………！

洋美、無言で柳子と固い握手。

亜耶 お父さん、クズだなあ……………
柳子 何を今更
亜耶 死ねば良いのに。てか、もう死んでるけど
美鈴 ごめんなさい
柳子 (笑つ)どうして美鈴ちゃんが謝るの？
美鈴 だって
柳子 子供は、ただの被害者なのよ。悪いのは、私達大人だから
美鈴 大人です
柳子 え？
美鈴 私達、もう、大人です。今年で25歳になりました。だから、これから言う事は、
亜耶 全部、私自身の言葉です
美鈴 みーちゃん……………
亜耶 亜耶ちゃん(頭を下げる)お願いします！私の結婚式に、私の一番の親友として、
出席してください！

間。佳子、眼を覚ます。

佳子 私からも、お願

子ヨ あの、結婚しませんかあ……………!?!?

佳子 え?(悲鳴を上げて気絶する)おっさん……………

洋美 お姉ちゃん!?もはや悪霊だな……………

子ヨ 結婚したいよう……………

亜耶 どうして、私なの?

美鈴 どうして?

亜耶 みーちゃんは私と違って、昔から友達いっぱいいたじゃん。男の子も女の子も先生

も、みんなみーちゃんの事が好きだったけど、私は、みんなから変な奴だって

美鈴 亜耶ちゃんは変な奴じゃないよ

亜耶 変な奴だよ。いい歳して、あんなの(カエルのパペット)持ち歩いてるし

美鈴 それなら私だって

亜耶 え?

美鈴、鞆からカエルのパペットを取り出す。

亜耶 それ……………!

美鈴 流石にいつもは持ち歩けてないけど、この子だけは、絶対に、手放したくなかった

から(カエルを操って)私(アドリブで別の名前)!お久しぶり、(アドリブで名前)

亜耶 あ……………ああ……………

美鈴 (カエルを操って)私ね、(アドリブで名前)の事が、世界で一番大好きなの!今の

私がいるのは、小学校の入学式の時、亜耶ちゃんが(カエルを操るのを止め)亜耶

ちゃんが、勇気を出して、私に話しかけてくれたお陰だよ……………結局、私達は、

亜耶ちゃん達を、不幸にする事しか出来なかったけど

そんな事ない!

美鈴 亜耶ちゃん

亜耶 あ、わ、私は、みーちゃんがいたから、強くなれたの。いや、全然強くないけど今。

私だって、みーちゃんの事……………

亜耶、言葉に詰まる。

柳子 亜耶。良いのよ、私達の事は気にしないで、素直な気持ちで

亜耶 違っ……………

柳子 違っ?

亜耶、洋美からカエルを返してもらっ。

亜耶 (カエルを操って) どうして、オイラなんだぜ？
美鈴 え？

亜耶 (カエルを操って) 昔と違って、今のみーちゃんにはお友達も彼氏も、いや、旦那さんもいるんだぜ。わざわざオイラを結婚式に呼ぶメリットOだぜ
美鈴 メリットって

亜耶 (カエルを操って) むしろOどころかマイナスだぜ。オイラ達が出席するという事は、つまり

美鈴 もちろん、それも覚悟の上だよ

亜耶 (カエルを操って) はっ!?! 頭おかしいんじゃないの!?!

柳子 亜耶!

亜耶 (カエルを操って) そんなの、友情なんかじゃないぜ。ただの執着ってやつだぜ!

みーちゃんは悔しいんだ! 他のモノは、お父さんだって何だって手に入ったのに、私だけは、みーちゃんの思い通りにならないから……贅沢すぎるんだよ馬鹿誰がご出席なんかするもんか! 帰れ! 今すぐ帰れ! ああ——! ——! ——!

間。

美鈴 うん。そうだね。そうかもしれないね……でも、それでも私、諦めきれない。

何もかもを失ってしまったって構わないの。私は、亜耶ちゃんともう一度

もう無理なんだよ!

嫌だ!

美鈴 嫌だ!

洋美 ……:嫌だ! 私、亜耶ちゃんじゃなくちゃ嫌だ! 嫌なの! 嫌だ——! ——!

美鈴 馬鹿(カエルを操って) 馬鹿鹿じゃねえの!?! 旦那さんの立場もあるんだぜ!

世間知らずも大概!

美鈴 旦那もみーぴよんが良いなら良いよって言ってくれたもん!

亜耶 みーぴよんて誰だよ?

美鈴 私だよ! 悪かったな!

亜耶 誰も悪いとは言っていない! ラブラブじゃねえか!

美鈴 うん。そうだよ。ラブラブだよ私達! 羨ましいでしょう!

亜耶 表に出ろ!?!

亜耶、美鈴に襲いかかろうとするが、柳子に止められる。相撲再開。

佳子 美鈴……

洋美 あ、起きた

佳子 あの子のおんな顔、久しぶりに見たかもしれない……

洋美 そうだね

柳子、亜耶を投げ飛ばす。

美鈴 おー(拍手)
柳子 どうだ！
亜耶 お母さん、強すぎだよ
柳子 母は強しよ！
美鈴 なるほど
亜耶 いやいや、納得しないで
美鈴 分かった
亜耶 素直か

亜耶、美鈴、柳子、佳子、洋美、笑い合う。

柳子 それで、結局どうするの？美鈴ちゃんの結婚式は
亜耶 あ、そつだった
美鈴 お願います！（頭を下げる）
佳子 私からも、お願います（頭を下げる）
亜耶 (柳子を見る)
柳子 お母さんは、亜耶が出席するなら、一緒に出席するわ
佳子 ！？良いんですか？
柳子 もちろんよ。子供達に、罪はないんだしね
佳子 ごめんなさい……………
柳子 良いのよ。もう、時効よ
柳子 やっぱり、相川さ……………柳子さんには、敵いません
柳子 そつね
亜耶 みーちゃん
美鈴 うん
亜耶 ……………また、改めて連絡するね
美鈴 ……………ありがとう
亜耶 ま、まだ出席すると決まった訳じゃ
美鈴 ありがとう(泣く)
亜耶 だから

亜耶、美鈴、柳子、佳子、洋美、めでたしめでたし！みたいな感じになる。

洋美 うん。良かった。良かったねー。うん。みんな良かった。本当に良かった。うん
佳子 洋美、勝手に合鍵作っちゃって、本当にごめんなさい
洋美 それは絶対に許さない。とりあえず、良かった
佳子 ええ？許してくれないの？

洋美 はい！宴もたけなわですが、もう、時間もアレだからね。はい
柳子 あら。もうそんな時間？
亜耶 (カエルを操って)ちよつどお腹も空いてきたんだぜ
佳子 あ、じゃあ出前でもとって
美鈴 帰ろうお母さん。これ以上、洋美お姉ちゃんに迷惑かけるのは良くないよ
洋美 美鈴……………！
佳子 えええ？(洋美に)そうなの？
洋美 ちよつと黙れ
佳子 しゅん
亜耶 私達も帰るね
洋美 家出はもう、大丈夫なの？
亜耶 うん。何か、ちよつとだけ分りかけてきた気がするから
洋美 そっかそっか
亜耶 また来るね。洋美お姉ちゃん、本当に、ありがとございまして！
洋美 私、何もしてないけどね
亜耶 チヨコ太郎も…………あれ？チヨコ太郎は？
洋美 どうしたの？
亜耶 チヨコ太郎…………居ない…………
洋美 チヨコ太郎なら…………
チヨコ (息絶え絶え)結婚したいよう…………
佳子 ひい！？(シヨックで気絶する)
美鈴 お母さん！？
亜耶 ま、良いか
洋美 良いの？
亜耶 うん。成仏出来たんだったら、それはそれで良い事だし
洋美 まあ、まだ成仏してないけど
亜耶 え、成仏してないの？
洋美 ううん…………！100%成仏した！だから安心してお家にお帰りなさい！
柳子 そっか。ちゃんとバイバイしたかったなあ…………
亜耶 亜耶
洋美 うん。またね、洋美お姉ちゃん…………みーちゃん。佳子さん
洋美 うん！気をつけて帰ってね！
美鈴 またね
亜耶 うん。また

チャイム音。

洋美 ガッテム！あとちよつとだったのに……………はい(退場)
亜耶 がってむ？

柳子 Goddam. 神を地獄に落とすという意味よ
亜耶 何それ怖い
洋美声 え？
庵声 あの醜女……出しなさいよ……
洋美声 え？
亜耶 シコメ？
柳子 醜女。みにくく、すさまじい女。黄泉の国の女鬼の類よ
亜耶 何それ怖い
洋美声 え？あ、ちよ

ウエディングドレス姿の庵、登場。洋美、少し遅れて登場。間。

柳子 あら
庵 出しなさいよ
洋美 天島さん
庵 上原野乃花……出しなさいよおおおおお……！？

曲。庵、暴れる。困惑する一同。

4

庵 これはダーリンと一緒に選んだテーブル！これはダーリンと一緒に選んだペアの椅子！これはダーリンと一緒に選んだルームランプ！これはダーリンと一緒に選んだテレビ台！これはダーリンと一緒に選んだなんかお洒落っぽい絵！これはダーリンと一緒に選んだソファ（ソファで気絶している佳子に気づく）ちよつと……？
美鈴 え？
庵 何、人のソファに勝手に座ってんのよ！？
美鈴 ごめんなさい。直ぐにどかしますから
洋美 良いよ、どかさなくても
美鈴 でも
庵 ちよつと貴女、何様のつもり！？
洋美 何様も何も、この部屋の家主ですけど……？
庵 私はこの家具達の持ち主ですけど……？
洋美 はあ？いや、この家具は野乃花の叔父さんの
庵 今何だった？
洋美 だから、この家具は野乃花、私の職場の後輩の
庵 やつぱり………貴女もグルだったんだ！あの醜女の……
洋美 グル？醜女？

庵
とぼけたって無駄じゃボケ！
洋美 待つて待つて待つて、本当に何の事だかさっぱり

庵、セロハンテープで復元された、宅配伝票の控えを洋美に見せつける。

庵 隣町のコンビニのゴミ箱に捨ててあった

凄

美鈴 よくここまで復元しましたね……これ、うちの住所

庵 ほらやっぱり……

洋美 いや、私も全く状況を呑み込めていなんですけど……何があつたんですか？

庵 何がって、そんなの……

庵、急に号泣。戸惑う一同。

美鈴 大丈夫ですか

庵 触るな馬鹿！

美鈴 ごめんなさい

庵 あんたみたいな女、私、大っ嫌い

え？

洋美 ちよっと、美鈴に八つ当たりしないでくださいよ

庵 ほらねー

洋美 はあ？

庵 選ばれるのはああ結局、何も出来ないお嬢様………

洋美 意味が分からない

庵 私だつて意味分かんないし！？私ね、今まで、ずーっと不幸だつたの。可哀想だつたの。残念な女だつたの。洋美さんみたいに

おい

庵 なまじ器用貧乏だつたから、何でも出来ちゃうけど、でも、別に頑張っていない訳ではないのに、なかなか努力が認められないというか、誰からも注目されないというか、良くも悪くも、可もなく不可もなく。というか、やっと見てくれた！つて思つたら、実はただの都合の良い女としてだつたり、というか

はあ

庵 でもねーそんな私でも出逢えたの！ダーリンと……「お前のその強さに惚れた！俺と、一生一緒に歩いてくれ……」つて

洋美 良かったじゃないですか

庵 良くねえよ！？ダーリンは……ダーリンは………！？

洋美 天島さん？あ、もう天島じゃないのか。えっと

庵 天島です。もう、天島庵です……！

洋美 もう？

チャペルの鐘の音。庵の結婚式(回想)

庵 それは、たった数時間前の事です……ちょっと(佳子を)借りるわ
美鈴 お母さん！
洋美 お姉ちゃん！

庵、気絶している佳子を無理矢理立たせ、佳子をダーリンの代役とする。

ダーリ 庵、愛してるよ

庵 私もよーダーリン……ああ。長かったなあ、ここまで。辛い事もいっぱいあったけど、今日の日の幸せに比べたら……むしろ、全ては今日、この日の幸せの為だったんだね……ね？ダーリン

ダーリ (顔面蒼白)

庵 ダーリン？どうしたの？どこか、具合悪いの？ねえ？バファリン飲む？

野乃声 待つて……！

庵 は？

野乃花、登場。

ダーリ 野乃花

庵 は？

野乃花 いっぱい悩んだけど、私、やっぱり貴方が好き。愛してる！だからお願い。そんな女と、結婚しないで……！

庵 は？何あのキチガイ女。怖い。どっしよう、ダーリン……ダーリン？

ダーリ 野乃花……！

ダーリン、野乃花のもとへ。

庵 は？

ダーリ ごめんな、野乃花。俺も、やっぱり野乃花が好きだ！愛してる！

庵 は？

野乃花 私も！貴方が好き！愛してる！

庵 は？

ダーリ 行こうか？

野乃花 うん

庵 は？……え、ちょっと！

野乃花 ちよつど良いブス、舐めんな！

野乃花、ダーリン、退場。

※ダーリンは洋美達の手によって、佳子が居た位置に戻される。

庵 ふざけんなし……ふざけんなしふざけんなしふざけんなし……(走り始める)
私は、我武者羅になって2人の後を追いかけてました。が、この姿では上手く走る事ができず(息絶え絶え)ん畜生！見失った……嫌な予感。(方向転換)私は、ダーリンとの新居に向かいました(ドアを開ける)たたたたた！バーン！ダーリン……何、これ……私とダーリンで選んだ家具が……ない！私は、絶叫しました

庵、絶叫する。

柳子 過ごしやすそう

亜耶 お母さん！

庵 絶叫し、発狂した私は、息も絶え絶えの中、必死にダーリンとあの醜女の痕跡を探し求め、町を練り歩き、やっとの思いでここに辿り着いたので

洋美 物凄い執念ですね

庵 当たり前でしょう！……やっとなんと幸せになれると思ってたのに……憎い！

あの醜女が憎い……死ね！死ね死ね死ね死ね死ね……みんな死ね……

(俯く)

美鈴 あの、野乃花の、あ、あの醜女のドクズ具合はよく分かりました。しかしです

洋美 ね、私も巻き込まれた一被害者で……あ、お返ししますね……この家具

庵 いらねえよあの醜女の手垢が着いた家具なんか……？

洋美 ええ……

庵 分かってました最初から。どうせ、ここにあの2人はいないんだって。気づいた時

洋美 にはもう、何もかもが手遅れだったんだって(泣く)

洋美 天島さん……

庵 どうして……どうしていつもこうなの……どうしていつも、あと一歩

洋美 の所で逃げて行くの幸せは……？

洋美 あ、諦めないでください

庵 は？貴女がそれを言いますか？

洋美 え？あ

庵 あんなに「もう疲れちゃったんです。人生」とか言ってたくせに

洋美 それは

佳子 (急に目覚めて)そっなの？

美鈴 お母さん

洋美 お姉ちゃん！大丈夫？

佳子 私の事は良いから。ねえ、あの人が言ってる事、本当なの？やっぱり、本当は

洋美 違うから大丈夫だから

間。

洋美 はい？

チヨコ 結婚？

庵 ええ

チヨコ え？結婚って言った？今

庵 ええ

チヨコ 僕と？

庵 ええ

チヨコ 貴女が？

庵 ええ

チヨコ 結婚？

庵 ええ！

神々しい曲と照明。チヨコ太郎、成仏開始。

庵 え？何この曲と照明

洋美 曲と照明言っな

庵 (チヨコ太郎を見て)チヨコ太郎さん！？

チヨコ 結婚……出来ちゃった……

洋美 バイバイ

庵 は？ちよつと、意味分かんないんですけど！？待って！これ、なし！今のなし！

チヨコ なし……あ、結婚！なし……

庵 結婚……なし……

チヨコ なし！結婚なし！

チヨコ 分かりました……

チヨコ太郎、成仏中止。

チヨコ すん

洋美 は？

庵 うえーん！チヨコ太郎さーん(チヨコ太郎に抱き着く)

チヨコ せつかく結婚できると思ったのに……(再び頭を抱える)痛い……

亜耶 洋美お姉ちゃん

洋美 え？

亜耶 チヨコ太郎、やっぱりまだ、成仏してないの？

洋美 それは……

庵 成仏？成仏って？

亜耶 (カエルを操って)じよ、成仏は成仏だぜ。チヨコ太郎は、結婚したい地縛霊ナンバ

ーワンなんだぜ……

まあ、地縛霊である事は最初にお伝えしましたけどね。ううう……
そんな。だって、あんなにモチモチしているのに……

確かに。ただの小太りのおっさんよね？

そうなの？私には声しか聞こえないわ

私、何にも見えない

え？

(カエルを操って)オイラは、さっきまでちょっと見えてたのに、急に見えなくな
っちゃったんだぜ……

えー。私だけ仲間外れなの、何だか寂しい……

私も、今はもうチヨコ太郎見えないから

あ、そっか……私が、死ねば良いんだ！

間。

庵

え？何この空気……全くもって予想外なんですけど……え？だってそう
でしょう？チヨコ太郎さんは、結婚したい。私も、チヨコ太郎さんと、結婚した
い。でも、チヨコ太郎さんは地縛霊だから、人間である私とは結婚出来ない。
結婚しようとする、成仏しちゃう。だったら！私も幽霊になって、チヨコ太郎

さんの居る世界に行けば

それは

そんなの駄目です！

は？

美鈴

すみません、急に……駄目です。死ぬなんて、絶対に、駄目です

どうして？

え？

どうして死んだら駄目なの？誰も不幸になってないじゃん

それは、庵さんのご家族の方が

とつくの昔に死んでますけど？

え？ご、ご親族の方とか

そんなの、どこに居るか知りませんが？

お友達とか

そんなの居ませんけど？

職場の方とか

現在無職ですけど？

お付き合いしている方とか、あ

美鈴！

(ガチギレして)ふざけんなよクソアマア！？

庵

佳子

美鈴

庵

美鈴

庵

美鈴

庵

美鈴

庵

美鈴

庵

美鈴

佳子

庵

美鈴

チヨコ

美鈴　「ごめんなさい！」
亜耶　「みーちゃん！」
柳子　「美鈴ちゃん！」

亜耶と柳子と佳子、美鈴を庇う。間。

チヨコ　「あの、イオリ？さん。僕も、別に貴女に死んでもらってまで結婚したい訳じゃあ

庵、笑う。

チヨコ　「あ……………」

庵　「ほらね……………やっぱり私、あんた(美鈴)みたいな女、大っ嫌い……………！私の事、何にも知らないくせに、自分が気持ち良くなりたいたいからって、赤の他人にまで中身空っぽなお説教をして

赤の他人なんかじゃ

庵　「赤の他人だわあんたなんか。それとも何？人類皆兄弟とも言いたい訳？どんだけ頭の中お花畑なの？ねえ(美鈴に詰め寄る)」

うちの娘に触らないで！！

お母さん

貴女こそ、美鈴の事、何にも知らないくせに……………！！

佳子　「(笑う)何？あんたら親子なの？通りでこいつも頭の中お花畑だと思ったら何なんですかさつきから……………」

お母さん、私、大丈夫だから

庵　「あんたらみたいなのが居るから！あんたらみたいなのが上辺だけの愛とか幸せとかを押し付けてくるから！いつまで経っても、私達みたいな人間が幸せになれないんだよ！？」

私、達？

庵　「何にも知らないくせに。何にも知る気がなくせに。周りが庇ってくれるからって、自分だけが正義だと勘違いしやがって。ふざけんなよ馬鹿女共！？お前らのせいで、どんだけの人間が不幸になったと思ってるの！？」

庵さん！

うるせえ！お前は黙ってるー！？

ええ……………」

庵　「私が死んで、お前の事を幸せにしてやるって言うてんだよ！大人しく私が死ぬの

洋美、庵をビンタする。

庵　「え……………？」

洋美　「……………自分だけが正義だと勘違いしているのはどっちだ……………ああ！？」

佳子 洋美

洋美 確かに私達は不幸かもしれない。でもね、生憎、私はあんたと違って、強い女なんだよ!?

庵 はあ? あんただけ赤の他人の前でかまってちゃん発言しておいて

洋美 確かにあの節はどうもすみませんでしたあ! ? 素敵なお部屋をご紹介いただき誠にありがとうございます! ? : : : : : でもね、天島さん。何度でも言うけど私は、私達は! あんたとは違う。あんたと違って私達は今、必死に、生きてる! 結局お説教ですか

庵 逃げるな! ! !

洋美 逃げるわ! ! !

庵 それでも逃げるな! ! ! 逃げるな! ! !

洋美 あんたがそれ、言う?

庵 ああそうだよ、ブーメランだよ特大ブーメラン! ! 完全に自分の事は棚上げだよ悪かったな! ? だけど私は、あんたと違って死にたいだなんて思っていない!

庵 私だって、あんたと違って、死んでるみたいに生きてないわよ! 全力で生き抜いたからこそ、死んでも手に入れたモノを見つけたからこそ

佳子 (佳子を引き寄せて) 私の姉を見ろ! !

洋美 え?

庵 は?

洋美 本当に全力で生き抜いている女というのは、こっぴついう女の事を言うんだ!

佳子 え? え?

洋美 自分が愛されキャラである事を良い事に、自分の欲望の赴くままに他人を傷つけ、困ったら泣き、一人では生きていけないと、常に依存先を探し続けている恥知らずなウジ虫みたいなこの女こそ! 全力で生き抜いている女なんだよ! ?

佳子 あ: : : : : あ: : : : :

柳子 洋美ちゃん、もう止めてあげて! とくに佳子さんのライフは、Oよ!

庵 流石に言い過ぎでしょう: : : : : :

洋美 言い過ぎじゃない! だって私は、この人の

佳子 (耐え抜いて) ふんぬ! 妹よ! ! !

洋美 え

佳子 私の: : : : : 妹よ! ! ! ! !

佳子、洋美を強く抱き締める。

洋美 ちよつと

佳子 馬鹿! 洋美の馬鹿馬鹿馬鹿! どうしてもっと早くに本音を言ってくれなかったの? ?

洋美 はい?

佳子 見縊らないでよね。私は、確かに恥知らずなウジ虫だけど、ウジ虫の前に、洋美

のお姉ちゃんなんだから……あの日、私の目の前で、家族の中で何故か洋美だけが、車に轢かれてしまったあの時からその話は止めていつも、心配してるんだから……愛してるんだから……馬鹿……

間。庵、座り込む。

庵 何よ……結局、ひとりぼっちなのは、私だけじゃない……

チヨコ太郎、弱っている庵を見て、鼓動が高鳴る。

チヨコ 可愛い

庵 え？

チヨコ うっ！頭が……！……！（頭を抱えて蹲る）

庵 チヨコ太郎、さん？

この部屋の、前の前の前の住人の声が聞こえてくる。

前の声 つかあーっ！発泡酒と板チヨコうめえー！

チヨコ え？

前の声 つかあーっ！発泡酒と板チヨコうめえー！

チヨコ この声は

前の声 つかあーっ！発泡酒と板チヨコうめえー！

チヨコ 僕の事を最初に見つけてくれた、この部屋の、前の前の前の住人の声だ！

前の声 つかあーっ！発泡酒と板チヨコうめえー！

チヨコ 教えてください！僕、地縛霊なのに彼女を見ると何故か頭が痛くて胸も痛くて

つかあーっ！発泡酒と板チヨコうめえー！

チヨコ 聞いてない！？なんだか凄く辛くて苦しくてモヤモヤして

前の声 それは、クモ膜下出血だ

チヨコ いや、僕もう死んでるんですけど

前の声 じゃあそれは、恋だ

チヨコ え？

前の声 クモ膜下出血でないとすれば、それは、恋だ。恋をしているんだよ、お前は

チヨコ太郎、覚醒する。

チヨコ 思い、出したぞ……何もかも、全部……

庵・洋 え？

チヨコ 僕は、この土地に住む農民だったんだ。幼馴染のおキヨちゃんの事が好きだけ

の、何者でもない、ただの、男だったんだ……………!!

庵
チヨコ太郎さん

チヨコ太郎ではない! 僕の本当の名前は……………森山……………平六だ!

洋美
溜めたわりに普通!

庵
平六さん!

チヨコ
おキヨちゃん!

庵
庵だよ!

チヨコ
間違えた! 庵さん!!

庵
はい!

チヨコ
僕は、ずっと勘違いしていました!

庵
勘違い?

チヨコ
僕は生前、幼馴染であるおキヨちゃんの事が好きでした。しかし、僕は人一倍

身体が弱く、おキヨちゃんの事を幸せにする自信をとても持つ事が出来ませんでした。そして、気がつけばおキヨちゃんは、立派な男性のもとへと嫁いで行き、

僕は、流行り病を拗らせ、ついにはこの気持ちをとおキヨちゃんへ伝える事すら出来

ないまま、一人ぼっちで、あの、短い生涯を終えました

そんな。そんなにモテモテしているのに……………

庵
気がつくとは僕は、ここに居ました。僕の記憶は全て失われ、ただ一つ、結婚した

チヨコ
い。これだけが、僕の中にありました。しかしこれは、大きな勘違いだったので

す! 今気がつきました!!

庵
それは、どうして?

チヨコ
それは……………僕も貴女に、恋をしてしまったからです!

庵
嘘……………!!

チヨコ太郎、じわじわと成仏しそうになるが、必死に抵抗する。抵抗しながら、庵に愛を伝える。

庵
平六さん!

チヨコ
この気持ちはどういう気持ちなのか、ずっとずっと分からなくて、僕はもう、何

百年もこのままで……………くそっ!! だけど、貴女が、僕の事を好きだと言ってく

れたから僕は、嫌だ!! まだ成仏したくない!! ぐぐぐ……………

庵
平六さん! 頑張って!!

チヨコ
どういう状況なの?

庵
小太りのおっさんが、闘っているわ

美鈴
何と?

佳子
そうね……………己、自身とかしら

美鈴
己、自身と……………

亜耶
チヨコ太郎! 頑張れ!!

柳子
頑張れ!!

洋美以外、チヨコ太郎を応援する。

洋美 何だこれ

チヨコ 僕は……結婚したかったんじゃない……僕は……切なくて愛おしいこの贅沢な気持ち……今度こそ……誰かと共有したかったんだ……誰かに伝えたかったんだ……誰かと一緒に……なりたかったんだ……

庵 平六さん………

チヨコ 庵さん……僕も……貴方が好きだ……愛してるぞ……

庵 私も……平六さんの事が……スキ……愛してる……

チ・庵 おおおおおおおおお……

地鳴り。揺れる一同。

洋美 だから何なんだよこれは

柳子 神よ！

洋美 はい？

柳子 神が怒っているんだわ。神が決めた理を、2人が壊そうとしているから

洋美 柳子さん、何者？

柳子 うふふ

洋美 うふふって

洋美以外、Goodman・Goodman……と言いながらチヨコ太郎を応援する。

チヨコ おおおおお……神が……なんぼのもんじゃ……い……い……い……？？

庵 平六さん………んんん………

チヨコ太郎、ついに神に打ち勝ち、地縛霊から悪魔へと進化を遂げる。

亜耶 チヨコ、太郎………？

美鈴 あっ

佳子 ひい……？

柳子 あらら

亜・美 見えた

亜耶と美鈴、眼を見合わせ、やがて、笑い合う。

チヨコ 我が名は神に背きし恋の大悪魔！フォレストマウンテン・ハイロクである……ぬわっ

はっはっは……ぬわっはっはっはっは……ぬわっはっはっはっは……

庵、チヨコ太郎の手を取る。チヨコ太郎と庵、抱き締め合う。
場面転換。

5

【数か月後・ロマネスクタワー・305号室】

チヨコ太郎、ソファで踏ん反り返って眠っている。

回想シーン。亜耶と洋美のLINE通話。

洋美 それで？どうだったの、美鈴の結婚式は

亜耶 どうだったのって、洋美お姉ちゃんも見てたでしょう？

洋美 いや、見てたけどさ。亜耶ちゃん的に、どう感じたのかなって思っ。あれ

亜耶 みんな、凄い顔してたね

洋美 そりゃあね。過去に何があったのかは言わないにしても、噂は既に出回ってるだ
ろうし。色んな事があったけれども、それでも彼女は、私の一番の親友です！っ
て言ったって、それはそれで、誰も信じないだろうし

亜耶 だね。本当に馬鹿だよ、みーちゃんは……私ね、今まで、ずーっと苦しかった。
息苦しくてもがいてた。誰がどう見ても、ただの女の子に見える普通の女の子か、
特別すぎる女の子になりたいって思ってた

洋美 うん

亜耶 でもね、披露宴でスピーチしたらね……お姫様みたいな姿で顔をクシャク
シャにして泣いているみーちゃんと佳子さんを見ていたらね、私の事を白い目で
見てくる、キラキラした衣装を着て、贅沢な料理に囲まれた人達を見ていたら
ね、そんな殺伐とした空気の中で、一人、嬉しそうに笑っているお母さんを見て
いたらね……私、やっと分かったんだ。私が一番欲しかったモノが何なのか。
やっと、見つけられたんだ……

亜耶、退場。回想終わり。やがて、チヨコ太郎のいびきが聞こえてくる。

洋美、溜息を吐く。庵、カメラを持って登場。

庵 また溜息？

洋美 ………

庵 溜息なんか吐いて。幸せが逃げちゃっても知らないんだから

洋美 うちの姉のモノマネをするの、止めてくれます？

庵 えー？

洋美 えー？じゃない

チヨコ んがっ(目覚める)んあ、よくぞ無事に帰還したーマイワイフ！

庵 ただいま、ダーリン……！

チヨコ 近う寄れ

庵とチヨコ太郎、動画撮影の準備を始める。

洋美 (独白)あの日、神が決めた理に逆らい、地縛霊から悪魔へと進化を遂げたチヨコ太郎は、「この部屋からは離れられないものの、全生物に、そのモチモチとした姿を披露する事が出来る様になりました。居たたまれなくなった私は、この部屋を天島さんに売却し、天島さんは「全生物に惚気てやる」と、某有名動画サイトにチヨコ太郎の姿をUP。たちまち有名人となったチヨコ太郎は「世界初！見える触れる3D悪魔??」として芸能界デビュー。そして、ついに先日、この部屋は、国の重要指定文化財に指定されました

チヨコ (カメラに向かって)国の重要指定文化財ありがとうっ!!

庵 ありがとうっ!!

チ・庵 ぬわっはっはっはっは!!

洋美 あの一

庵 はい?

洋美 用事って何ですか?私、早く帰りたんですけど

庵 段ボールハウスにですか?

洋美 もう一度はっ倒すぞ。普通のアパートにです。家賃6万5000円の

庵 結局、「ご実家には帰らなかったんですね

洋美 まあ、元々実家で暮らしてたのも、両親の事が心配だったからなので。今は、姉が居ますから

庵 ふーん。普通に4人で暮らせば良いのに

洋美 嫌ですよ。30代と40代の独身娘が、揃いも揃って実家暮らしだなんて
そのの、どこがおかしいんですか?

庵 え?

洋美 洋美さんも、まだまだですね。いとおかし

庵 はあ

チヨコ お菓子!?今お菓子って言ったか貴様

庵 黙れ(チヨコ太郎をビンタ)

チヨコ ヒヤッハー!!! (踊る)

洋美 あの、だから用事って何ですか?

庵 あ、そうだった

庵、古びたアヒルの人形を持って来て、洋美に手渡す。

庵 プレゼント

洋美 何ですかこれ?

庵 いや、「いつ、近くのゴミ捨て場に何故か捨ててあったんですけど、「いつの顔を

見てたら、洋美さんの事を思い出しちゃって。あ、よく見たら洋美さんにちょっと似てるなあって思ってた

洋美 似てません要りません(アヒルを返却する)さようなら

庵 そんな事言わずにー。はい、ブーケトス！(無理矢理アヒルを洋美に手渡す)いらねえよ！

洋美 これはーちよつと汚いだけの、普通の、アヒルさんです

庵 だから？

洋美 でも、可愛いでしょ？

庵 だから？

洋美 洋美さんも、可愛いです

間。

チヨコ それ、要らねえなら俺が喰うぜ？

庵 (チヨコ太郎をゴンタ)

チヨコ ヒヤッハー！！(踊る)

庵 次は、洋美さんが、幸せになる番です

洋美 え、天島さん本当に今、幸せ？

庵 大丈夫。この世界は、津島さんが思っている程、残酷ではないんですよ

洋美 無視

庵 私も、今までいっぱい辛い事がありましたけど

洋美 そうですね

庵 それでも今は、見ていただいて分かる通り、幸せ、いっぱいです！！

チヨコ ミュージックスタート！

曲。庵とチヨコ太郎、踊る。洋美、啞然としながらアヒルの人形を弄る。

アヒル、プイッ！と、変な声で鳴く。

洋美 どういつもいつも……おとおおお……絶対に世界一幸せになってやる
うううううう……！！

洋美、庵とチヨコ太郎と一緒に踊る。暗転。

おしまい。